

令和5年度第3回地域ケア推進会議

重層的支援に課題のある家族への 地域包括ケア体制について

～高齢者あんしん相談センターの業務負担軽減と機能強化の視点を踏まえて～

テーマ選定の主旨・目的

高齢者が安心して住み慣れた地域で暮らすためには、高齢者本人への支援に合わせ家族支援（ケアラー支援）を行っていく必要がある。複雑・複合的課題のある家族への支援は、高齢者への地域包括ケアを行う上で乗り越えなければならない大きな壁となっている。「家族支援に関する地域ケア会議」で抽出された現状や問題をしっかりと踏まえ、地域ケアを推進するための行政課題を明確化し、課題解決に向けた方向性や優先度について審議する。

＜今後の進め方＞

- 家族支援に関する現状や問題の共有
- 次回以降については、課題の明確化、課題解決に向けた方向性等について審議する。

【タイムスケジュール】（50分）

10分	主旨説明	家族支援に関する地域ケア会議から抽出した家族支援課題
15分	事例報告1	地域ケア会議事例「多摩ニュータウン地域の8050問題を考える」 高齢者あんしん相談センター堀之内 谷口センター長 (地域包括支援センター堀之内)
15分	事例報告2	多機関連携「高齢者あんしん相談センターとはちまるサポートとの連携事例」 高齢者あんしん相談センター由木東 仲村センター長
10分	質疑応答・意見交換	(地域包括支援センター由木東)

家族支援に関する地域ケア会議で取り上げられたテーマ

～令和4年度の事例～



- 〓 「多摩ニュータウン地域の8050問題を考える」
- 〓 「高齢者夫婦と統合失調症で引きこもりの長男がいる家庭への支援について」
- 〓 「8050問題 母子ともに課題があり家族支援が必要なケース」
- 〓 「将来への計画性や自立心の乏しい困窮家族の事例」
- 〓 「多問題を抱える本人・家族が望む暮らしを送るために必要な支援を考える」
- 〓 「若者ケアラーの生活支援・就労支援などについて考える」
- 〓 「2人世帯での親子(8050)生活について考える。父は物忘れがあり、子は精神障害あり、同世帯で協力しあって生活しているケースについて、支援方法など検討する。」
- 〓 「行方不明が増えている認知症高齢者とその家族への支援について」
- 〓 「8050問題・ヤングケアラーに関する広報資料作成検討会 第1回～3回」

家族支援に関する地域ケア会議で取り上げられた現状・問題事例

～令和4年度の実績から～

☆8050問題に関する主な現状・問題事例

8050世帯の特徴として親も子も、自らSOSを出すことができない。

親側支援者と子ども側支援者との連携が重要であるが、十分ではない

他分野・他職種との連携が不十分。

8050問題の子ども側支援として制度の狭間（エアポケット状態）にある50歳～64歳の方へは、既存の社会資源だけでは支援が行き届かない。

子ども側の経済的自立支援が困難。

「親が子どもを支えるしかない」と思い込んでいる。

親が生活保護の受給ラインであっても申請しようとしらない。

親が低栄養状態になっていることが多い。

親が認知症の場合、経済的虐待が発生していることが多い。

自分（親）が亡くなったらどうなるのか「親なき後」の不安がある。



☆ヤングケアラーに関する主な現状・問題事例

担当ケアマネジャーがひとりで奮闘しているケースもある。

当事者が問題と感じていないため、ケアマネジャーも現状を黙認している。

ケアマネジャーが8050問題やヤングケアラーについて、どのような関係機関が対応できるのか把握しきれていない。

☆認知症に関する主な現状・問題事例

不穏になる前兆や行動パターンの把握が困難。

日常における本人にできる役割の提供体制が十分でない。

地域の見守り、家族の思いを吐き出させる場所の提供体制が十分でない。

家族支援に関する地域ケア会議から課題として報告のあった内容 ～令和4年度の実績から抽出～



- 8050問題やヤングケアラーについて、市として実態調査をする等の必要性を認識する必要がある。
- 8050問題やヤングケアラーについて、市は地域包括に対してどのように対応すべきか等、国や他自治体の動きを踏まえて検討されたい。
- 他職種が垣根を超えて取り組むべき地域ケア会議の課題などに対して、庁内での温度差が感じられる。

「家族支援に関する地域ケア会議」の事例報告

八王子市東部圏域3包括8050問題地域ケア 会議の報告

「八王子市地域包括支援センター堀之内・ 由木東・南大沢合同地域ケア会議」

高齢者あんしん相談センター堀之内
(地域包括支援センター堀之内)

センター長 谷口 哲也

「家族支援に関する地域ケア会議」の事例報告

はじめに

現在当センターで開催している地域ケア会議について

①地域ケア個別ケース会議

支援困難ケース等

②自立支援型地域ケア会議

専門職間で本人のストレングス（強み）に焦点をあて、実現可能なアドバイスを提案してもらう。

③地域ケア会議（地域課題解決型・社会資源開発等）

地域の課題を抽出して課題解決や地域に足りない社会資源等を導き出す。

今回はここです。

「家族支援に関する地域ケア会議」の事例報告

1. 開催の経緯

東部圏域の3地域包括支援センター（堀之内・由木東・南大沢）では、コロナ禍前からニュータウン圏域の共通課題について広域の地域ケア会議を合同開催する事を決めていた。

2. 東部圏域包括の共通の課題について

日頃の相談ケースの対応実績から、認知症高齢者の同居家族に精神疾患が疑われる事例が多くみられた。

※住居の特徴は、高層団地が多くあり、それぞれのコミュニティーが点在している。

「家族支援に関する地域ケア会議」の事例報告

3.出席者の選定

高齢者支援や同居家族の非就労者等に携わる関係機関。集合住宅の管理会社職員や警察・民生児童委員等を選定した。

当日は、高齢者福祉課・障害福祉課・自立支援課・保健所・警察・精神科医師・民生児童委員会会長・はちまるサポート・JKK・障害事業所・認知症家族会代表。

会議出席者21名

「家族支援に関する地域ケア会議」の事例報告

4. 会議当日の進行について

- ①今回は、顔合わせと情報共有を軸に意見交換を行う旨を説明。
- ②ニュータウン圏域の8050問題について、地域データをもとに説明。
- ③各センターからの事例紹介
- ④出席者からの現状報告
- ⑤意見交換及び現状での課題の抽出



「家族支援に関する地域ケア会議」の事例報告

5. センターとして感じたところ

- ①参加者全員が8050問題に関心があること、及び実際にどうしたら良いか？を明確に理解できていないことが判明した。
- ②ケース対応に苦慮した際に参加者に相談できることや情報共有を深めることができた。
- ③地域ケア会議開催については、規模にもよるが参加者の日程調整や準備等で時間が必要。

6. 地域ケア会議での課題について

- ①高齢者支援については、ある程度、関係機関との連携で対応可能だが、同居の若年層の支援に対してはアウトリーチを含め対応できる関係機関が不明瞭。
- ②高齢者の収入に依存傾向がみられ、介入拒否やサービス導入等での支障が多い。
- ③高齢者が不在になった後の同居若年層の生活維持について心配が残る。

「家族支援に関する地域ケア会議」の事例報告

さいごに

地域包括支援センターの業務には、垣根がないのが現状で様々なところから日々相談が入ってきます。たとえ高齢者でなくても地域住民が安心して生活できるようにセンター職員も奮闘しておりますが、特に若年層の問題（引きこもりケースや金銭問題等）での相談窓口について、つなぎ先に悩む事案が多く、センターとしても課題と感じています。

当センターが考える地域ケア会議は、開催が目的ではなく、出席者から何か良い案を頂くことを目的としております。

引き続き地域のことを地域で解決できるように取り組みたいと思っておりますので宜しくお願い致します。

ご清聴ありがとうございました。

家族支援に関する「他機関連携」の事例報告

令和5年11月10日 地域ケア推進会議

事例報告

高齢者あんしん相談センター由木東 と
八王子まるごとサポートセンター由木東の連携
(はちまるサポート由木東)

高齢者あんしん相談センター由木東
(地域包括支援センター由木東)
センター長 仲村 直美

家族支援に関する「他機関連携」の事例報告

1. 高齢者あんしん相談センター由木東と 八王子まるごとサポートセンター由木東の紹介

「高齢者あんしん相談センター由木東」と
「八王子まるごとサポートセンター由木東」はともに
令和元年6月 由木東事務所に開設

- 高齢者あんしん相談センター由木東
職員8名（生活支援CO、認知症地域支援推進員^{コーディネーター}含）
- はちまるサポート由木東
CSW2名、他非常勤職員2名



家族支援に関する「他機関連携」の事例報告

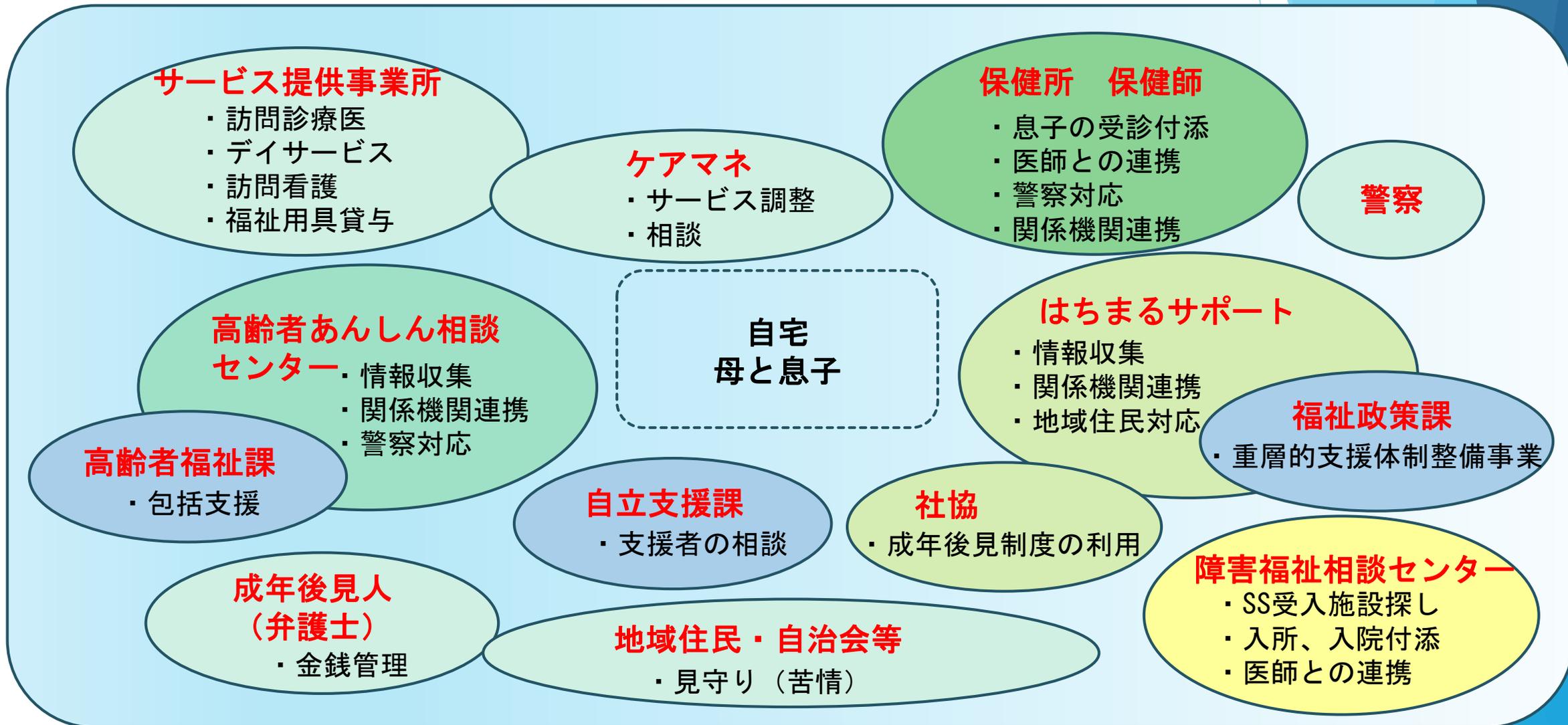
由木東事務所入口



家族支援に関する「他機関連携」の事例報告

2. 事例報告

それぞれの役割



支援の振り返り

- 高齢者あんしん相談センター由木東、はちまるサポート由木東は仕切りのない設置になっているので、普段から情報交換のしやすい環境下で、今回も円滑に行うことができた。
- はちまるサポートとは、生活支援コーディネーターを中心に地域行事へ参加したり、地域づくり活動と一緒にっており、その関係性から今回のケース対応についても動きやすさがあった。
- 包括南大沢・堀之内・由木東とその圏域のはちまるサポートで、地域ケア会議や勉強会を通して互いに職員個々の専門性や経験を理解しているため、相談しながら役割分担することができた。

今後の課題

- 息子にも支援の必要性があると判断しているが、本人が希望していないため（母親は希望）、はちまるサポート含めどのように支援へ繋がったら良いのか戸惑った。
- 息子は10代（中学～高校）の頃から発達障害があり、成人してから警察沙汰になったりしても本人、家族の問題意識が希薄で社会との繋がりが途絶えていた。どのような支援ができたのか。
- 地域権利擁護事業、成年後見制度の利用に繋がるまで時間を要するため、CMや介護保険サービス提供事業所の負担が大きかった。
- 複数の関係機関が関わっているため、定期的に会議を開催し役割分担、進捗状況等の情報共有を図ったが、それぞれの業務負担も大きく役割分担することも難しい場面もあった。また、けん引役の必要性を感じたが曖昧であった。
- 関係機関それぞれの業務の理解や専門外の知識の必要性を感じた。
- 包括、はちまるサポート、市職員の異動で支援が滞ってしまうことがあった。担当職員だけではなく担当部署や事業所で把握、支援する必要性がある。

ご清聴ありがとうございました

